＊･＊

【言語学研究叢書No.5の紹介】

「英語学習動機の減退要因の探求」
－日本人学習者の調査を中心に－

菊地　恵太

18歳人口の減少に伴う「大学全入時代」の到来は、私たちが日ごろ接する大学生の多様化を生んでいる。例えば、後期に受け持っている必修授業の履修生の中には、教員の目が届かなくなったと思うとすぐにスマートフォンの画面に目を移しているものもいる。授業中は、携帯電話をオフにしましょう、私語を慎みましょうと何度も注意していると教員の意欲も低下してしまうであろう。このような学生は周りの雰囲気さえも変えてしまう。こういった学生の外国語学習への意欲を高め、学習を維持させ、高い目的意識を持って少なくとも大学卒業までの4年間勉強に励んでもらうのは、どのようにしたらよいのだろう。

昨年3月に出版させて頂いた拙著では、今までの先行研究と私が行ってきたアンケートやインタビューを中心とした研究をまとめ、どのような経験が日本人英語学習者の学習動機の減退要因につながるかに関して議論した。外国語学習は地道で長い期間の必要なプロセスである。そのプロセスの中で学習者は「教員の言動」「授業環境」「周りの人々からの影響」などによってやる気の減退を経験する。本書では、そういった経験をしている学習意欲の構造を分析しながら、現場の教員が様々な学習者を扱うべきかを考察した。

考えてみれば、私自身も多くの経験によって英語学習意欲の減退を経験した。暗記や訳読ばかりを課せられた高校時代、毎回眠気に襲われる退屈な大学での授業など経験をしても今でも英語学習の意欲を失わないでいる。そのような学習者をどうやって育成できるか、そうした疑問への答えも本書を読みながらぜひ考えていただければと思っている。本書ができるだけ多くの方々の目に触れ、どのように英語学習動機減退要因を対処していけばよいかを考え、多くの外国語学習者のやる気を維持させるきっかけになればと切に願っている。